

zoom でゲストティーチャー

これまで、ゲストティーチャー参加の授業を行うことは、教師にとって大きな行事のようなもので負担感が大きかった。しかし、ゲストティーチャーに zoom 出演の依頼をすることで、今までよりも計画しやすく、実践しやすい側面が見えてきた。コロナによる遠隔授業期間があったからこそ注目し始めた新しいゲストティーチャーの活用方法である。

(1)zoom で打ち合わせ

ゲストティーチャーと授業などの打ち合わせを行う際、学校に来て頂いたり、担当教員が伺ったりすることが多い。しかし zoom であれば、こうした移動の時間を省き、画面共有で資料を提示しながら打ち合わせを進めることができる。そのため、都合のつく時間も設定しやすく、計画を立てやすい。

(2)ICT 機器の活用でこの場に来てもらっているように

大型モニターに繋ぐことで、ゲストティーチャーの顔を教室に大きく表示することができる。マイク兼スピーカーを教室に設置することで、その場で受け答えを容易にすることもできる。一人一台ずつタブレットを持ち、オーディオをオフにした状態で zoom に繋いでおけば、ゲストティーチャーからも児童生徒一人一人の顔がよく見える。こうした ICT 機器の環境デザインを整えることで、まるでこの場に来て頂いているような臨場感を出すことができる。



日本にいるのにコスタリカで会っているような感覚に！

(3)様々な zoom ゲストティーチャーの活用

① JA 土浦 (2020.10.1)

小学部 5 年生社会科「これからの食料生産とわたしたち」

国内の食料自給率が低下していることや、消費者に安全・安心を与えることに関する話をして頂いた。また、JA が問題視する食料問題について教えてもらい、その解決方法について考え、話し合うことができた。

⇒ 農家の後継者不足や、外国産の流通など、現場が抱える課題を一緒に考えることができた。



② NHK 記者（2021.2.3 実施）

小学部 5 年生社会科「情報産業とわたしたちの暮らし」

ニュース番組「サンホセ子どもニュース」を作るにあたり、現場で情報収集をしている記者の方から、情報収集の視点やポイント、注意点を教えて頂いた。それらをもとに取材し、根拠を明確にしたニュース番組を作成することができた。

⇒ この授業を受けて作成した動画は、後日送信し、視聴して頂いた。動画の出来栄についてコメントも頂けた。



③ JTB 教育事業ソリューションセンター（2021.2.8）

中学部 1 年生総合的な学習の時間「“働く”ってなんだろう」

キャリアに関する授業で、日本で働いている職業人に話を聞かせて頂いた。事前に生徒が考えておいた質問をしたり、子どもたちが立てた働くことに関する“問い”について、ゲストティーチャーも交えて討論したりした。討論テーマは「働くときにどのような気持ちで取り組むべきなのか」。大人も子どもも真剣に悩みながら言葉を交わし、答えがはっきりしないながらも、働くことについて考えを深めることができた。



仕事内容だけでなく働くきっかけも教えてもらえた。

④ キャリアコンサルタント（2021.2.10）

中学部 1 年生総合的な学習の時間「“働く”ってなんだろう」

キャリアコンサルタントの方とは特に討論会をメインとし、働くこととお金について話し合った。テーマは「仕事を選ぶ際に、給与の多さをとるか、仕事の楽しさをとるか」。話しているうちに、「楽しいとは何か」「そもそも仕事に楽しさは必要なのか」「お金がたくさんあったとしてもその使い道をどうするか」など新たな問いが生まれ、ゲストティーチャーや教員も含め、活発な討論会となった。

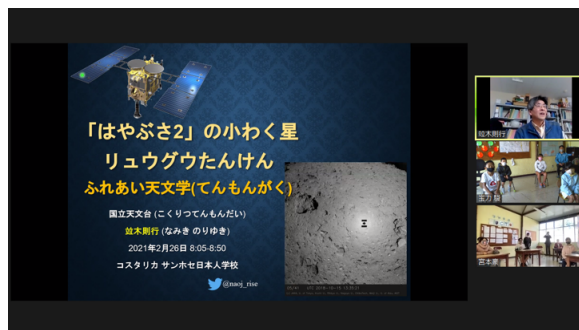


大人も子どもも悩みながらの討論会。

⑤ 国立天文台 天文学者 (2021.2.26)

全校行事「ふれあい天文学」

星の誕生や、ブラックホールの不思議について講演をして頂いた。密にならないように教室を2つに分けて実施した。視覚的な映像を用いた講演は、低学年から高学年、大人までもが、宇宙の神秘にワクワクする時間となった。質疑応答では、時間が足りないほどの宇宙への疑問が飛び出した。



「はやぶさ」の話も詳しく聞くことができた。

⑥ Panasonic CentroAmericana S.A. (2021.6.7)

小学部 6年生総合的な学習の時間「SDGs に挑戦」

企業が取り組むSDGsについて、ゲストティーチャーから様々な話を伺うことができた。ゲストティーチャーは日本だけでなく、様々な国で働いていた経験があるので、世界の情勢と向き合いながら実践してきた取組みを聞くことができ、グローバルな視点を身につけることができた。



働きながら世界の課題を解決しようとしている人の生の声を聞くことで、感動と使命感を覚えることができた。

⑦ JICA 企画調査員 (2021.6.8)

小学部 6年生総合的な学習の時間「SDGs に挑戦」

SDGs の活動をまさに中心で行なっているといえる JICA の方から具体的な取組みや課題を聞くことができた。一人一人の意識と行動の大切さや継続することの難しさ、途上国の状況など、実際の体験談から考えさせられることには大変価値があった。



頑張って活動していてもうまくいかないことも多い。こうした現実も知ることができた。

実践成果

前述した通り、ゲストティーチャーは気軽に呼べるものではないというのが我々教員の持っている印象であった。しかし、zoom によるゲストティーチャーの活用によって、その「重さ」が軽減されたのは間違いない。学習を進めるにあたり、「この部分で専門の方と触れ合わせたい」と思ったならば、zoom ゲストティーチャーに依頼する流れが自然になってきている。

子どもが専門の方から話を聞くことの効果は非常に大きい。専門的で何よりもその場で経験している人の言葉は生きている。子どもの関心や意欲が高まり、その後の学習の内容が深まるのを感じることができた。また、様々なゲストティーチャーと触れ合うことで、多様な生き方や考え方があることにも気付くことができていた。多くの人とのつながりが、子どもの学力だけでなく、豊かな心を育んでいくことを実感することができた。

授業後においても、「〇〇さん、こんなこと話していたよね」「△△さん、今なにやっているかな」と、ゲストティーチャーとのつながりが子どもたちの心の中に残り続けていることが分かる。今後も積極的に活用していく予定である。